

# *FINANCIAL REPORT*

## *2013*

福井大学



創造力、実践力。

国立大学法人

福井大学

UNIVERSITY OF FUKUI

平成 25 事業年度  
財務レポート

## 理念

---

福井大学は、学術と文化の拠点として、高い倫理観のもと、人々が健やかに暮らせるための科学と技術に関する世界的水準での教育・研究を推進し、地域、国及び国際社会に貢献し得る人材の育成と独創的かつ地域の特色に鑑みた教育科学研究、先端科学技術研究及び医学研究を行い専門医療を実践することを目的とします。

## 長期目標

---

福井大学は、21世紀のグローバル社会において、高度専門職業人として活躍できる優れた人材を育成します。

福井大学は、教員一人ひとりの創造的な研究を尊重するとともに本学の地域性等に立脚した研究拠点を育成し、特色ある研究で世界的に優れた成果を発信します。

福井大学は、優れた教育、研究、医療を通して地域発展をリードし、豊かな社会づくりに貢献します。

福井大学は、ここで学び、働く人々が誇りと希望を持って積極的に活動するために必要な組織・体制を構築し社会から頼りにされる元気な大学になります。



# —INDEX—

財務諸表等の概要	1
・貸借対照表B/S	1
・損益計算書P/L	3
・キャッシュ・フロー計算書	5
・国立大学法人等業務実施コスト計算書	6
財務指標による分析	7
財務状況	9
福大 HOT NEWS	11



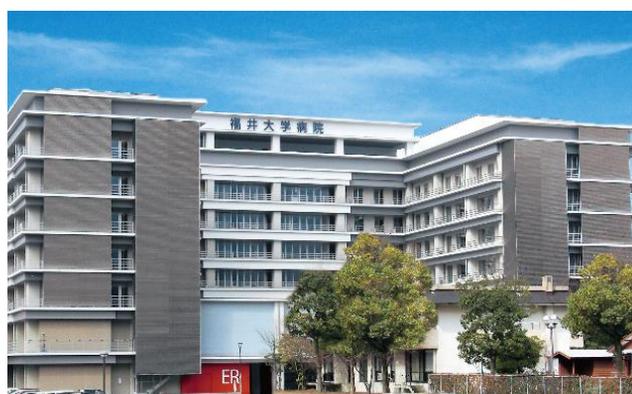
文京キャンパス



松岡キャンパス



敦賀キャンパス



附属病院新病棟完成  
平成26年9月OPEN

## ◆貸借対照表B/S

貸借対照表とは、平成26年3月31日時点で本学がどのくらいの資産を保有し、外部にどれだけの債務を負っているか、基盤となる純資産はどれだけあるかなど財政状態を表示したものです。

主な増減理由	区 分	平成24年度	平成25年度	増減額
	<b>資産の部</b>			
	<b>固定資産</b>			
工学系実験棟新営,メディカルコミュニケーションセンター新営に伴う増	土地	42,278	42,278	0
	▶ 建物	17,590	18,399	809
(文京)基幹・環境整備 (給水設備等改修)	▶ 構築物	320	383	63
(松岡)基幹整備 (給水設備等)	▶ 工具器具備品	6,626	6,845	219
	▶ 図書	2,534	2,571	37
医学部附属病院病棟新営工事に伴う増	▶ 美術品・收藏品	49	49	0
	▶ 建設仮勘定	2,739	8,075	5,336
	▶ 特許権	7	13	6
人事給与システム,グループウェアシステム, GAKUEN EX就職システムによる増	▶ ソフトウェア	25	41	16
	▶ 特許権仮勘定	64	47	▲17
	▶ その他	15	11	▲4
	<b>流動資産</b>			
医学部附属病院病棟新営その他工事費用の未払金増に伴う増	▶ 現金及び預金	11,068	15,411	4,343
	▶ 未収学生納付金収入	30	39	9
	▶ 未収附属病院収入	2,362	2,421	59
補助金, 受託・共同研究による増	▶ その他未収入金	250	711	461
	▶ たな卸資産	36	32	▲4
医薬品の減少に伴う減	▶ 医薬品及び診療材料	192	121	▲71
	▶ その他	41	27	▲14
	<b>資産合計</b>	<b>86,227</b>	<b>97,476</b>	<b>11,249</b>

注) 単位未満は四捨五入しており、計は必ずしも一致しません。

## 資 産

平成25年度末現在の資産は、前年度比112億4千9百万円(13.0%)増の974億7千6百万円となっています。

主な増加要因としては、建設仮勘定が、附属病院病棟新営など工事中の建物の増加等により前年度比53億3千6百万円(194.8%)増の80億7千5百万円となったこと、建物が新営により前年度比8億9百万円(4.6%)増の183億9千9百万円となったこと、工具器具備品が、取得により前年度比2億1千9百万円(3.3%)増の68億4千5百万円となったことが挙げられます。

## 負債

平成25年度末現在の負債は、前年度比 103億7千万円(38.2%)増の374億9千万円となっています。主な増加要因としては、長期借入金が前年度比 42億5千万円(88.6%)増の90億4千8百万円となったこと、未払金が前年度比 53億円(133.9%)増の92億5千8百万円となったことが挙げられます。主な減少要因としては、長期リース債務が前年度比 4億9千3百万円(44.7%)減の6億1千万円となったこと、財務・経営センター債務負担金が、償還により前年度比 3億3千8百万円(18.2%)減の15億1千9百万円となったことが挙げられます。

(単位：百万円)

区分	平成24年度	平成25年度	増減額	主な増減理由
<b>負債の部</b>				
<b>固定負債</b>				
資産見返負債	7,227	9,486	2,259	運営費交付金財源購入資産、補助金財源購入資産の増
財務・経営センター負担金	1,857	1,519	▲338	
長期借入金	4,798	9,048	4,250	25年度返済による減
長期リース債務	1,103	610	▲493	
その他	162	187	25	25年度借入による増
<b>流動負債</b>				
運営費交付金債務	2,187	1,455	▲732	リース資産購入減に伴う長期リース債務の減
寄附金債務	3,726	3,857	131	
前受受託研究費等	128	144	16	補正予算(復興関連事業)等、退職手当等の繰越額、業務達成基準適用事業費の減
財務・経営センター負担金	369	338	▲31	
長期借入金償還金	376	362	▲14	
未払金	3,959	9,258	5,299	
短期リース債務	571	540	▲31	(期末における主な未払金内訳) 医学部附属病院病棟新営その他工事
その他	657	686	29	
<b>負債合計</b>	<b>27,120</b>	<b>37,490</b>	<b>10,370</b>	
<b>純資産の部</b>				
資本金	50,666	50,666	0	施設費を財源に取得した固定資産の増(主なもの) ・設備整備事業(ヘリウム液化・回収システム等) ・施設整備事業(総合研究棟IV-2工学系等)
資本剰余金	11,488	13,016	1,528	
損益外減価償却累計額	▲9,585	▲10,417	▲832	
その他	▲2	▲2	0	
利益剰余金				
教育研究環境向上積立金	903	903	0	
積立金	820	818	▲1	
前中期目標期間繰越積立金	4,819	4,819	0	
当期未処分利益(未処理損失)	▲1	183	184	
<b>純資産合計</b>	<b>59,108</b>	<b>59,985</b>	<b>877</b>	
<b>負債・純資本合計</b>	<b>86,227</b>	<b>97,476</b>	<b>11,249</b>	

注) 単位未満は四捨五入しており、計は必ずしも一致しません。

## 純資産

平成25年度末現在の純資産は前年度比8億7千7百万円(1.5%)増の599億8千5百万円となっています。主な増加要因としては、資本剰余金が施設費による資産取得により前年度比15億2千8百万円(13.3%)増の130億1千6百万円となったことが挙げられます。

# 財務諸表等の概要

## ◆損益計算書P/L

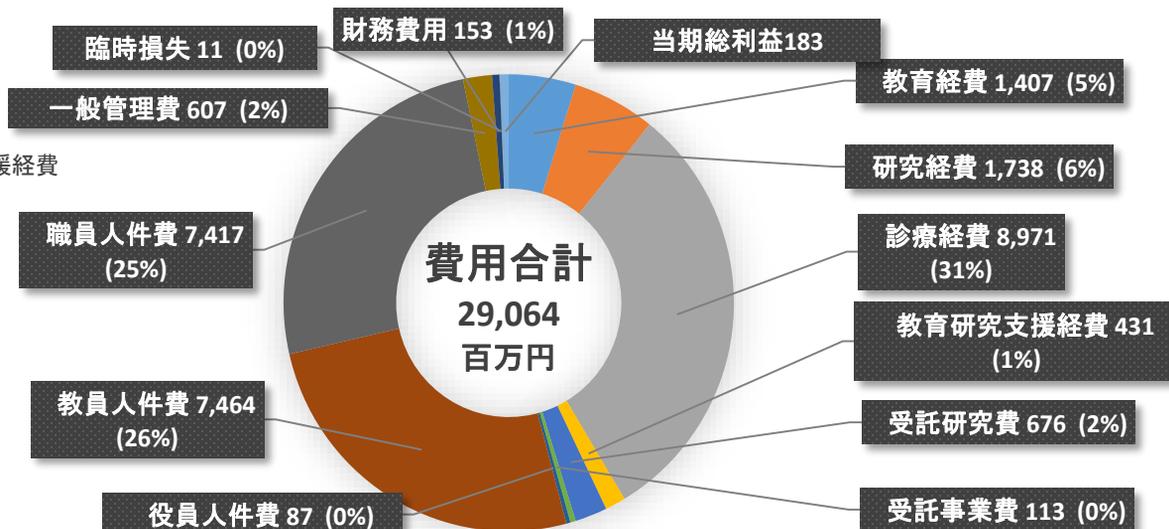
損益計算書とは、平成25年度の1年間に本学が業務運営を行う上で費用がいくらかかり、収入がいくらあったかなどの財政面から見た1年間の運営状況を表示したものです。

(単位：百万円)

主な増減理由	区 分	平成24年度	平成25年度	増減額
	<b>経常費用</b>			
	業務費			
	教育経費	1,446	1,407	▲39
	研究経費	1,670	1,738	68
	診療経費	8,485	8,971	486
	教育研究支援経費	394	431	37
	受託研究費	927	676	▲251
	受託事業費	91	113	22
	役員人件費	85	87	2
	教員人件費	7,194	7,464	270
	常勤教員給与	5,715	5,865	150
	非常勤教員給与	1,479	1,599	120
	職員人件費	7,106	7,417	311
	常勤職員給与	6,032	6,234	202
	非常勤職員給与	1,074	1,183	109
	一般管理費	611	607	▲4
	財務費用	164	153	▲11
	<b>経常費用合計</b>	<b>28,174</b>	<b>29,064</b>	<b>890</b>
	<b>臨時損失</b>			
	固定資産除却損	6	6	0
	前期損益修正損	5	5	0
	その他	8	0	▲8
	<b>臨時損失合計</b>	<b>19</b>	<b>11</b>	<b>▲8</b>

### 費用の内訳

- 教育経費
- 研究経費
- 診療経費
- 教育研究支援経費
- 受託研究費
- 受託事業費
- 役員人件費
- 教員人件費
- 職員人件費
- 一般管理費
- 財務費用
- 臨時損失
- 当期総利益



(単位：百万円)

区 分	平成24年度	平成25年度	増減額
<b>経常収益</b>			
運営費交付金収益	7,599	8,289	690
授業料収益	2,395	2,352	▲43
入学金収益	378	379	1
検定料収益	89	89	0
施設費収益	143	49	▲94
補助金等収益	465	678	213
附属病院収益	14,432	14,878	446
受託研究等収益	932	723	▲209
受託事業等収益	88	108	20
寄附金収益	329	327	▲2
講習料収益	40	40	0
資産見返負債戻入	939	998	59
財務収益	6	6	0
雑益	347	333	▲14
<b>経常収益合計</b>	<b>28,182</b>	<b>29,251</b>	<b>1,069</b>
<b>経常利益</b>	<b>8</b>	<b>187</b>	<b>179</b>
<b>臨時利益</b>			
固定資産売却益	0	-	0
資産見返運営費交付金等戻入	1	0	▲1
資産見返寄附金戻入	4	6	2
資産見返物品受増額戻入	0	0	0
前期損益修正益	3	0	▲3
償却債権取立益	0	0	0
<b>当期純利益</b>	<b>▲1</b>	<b>183</b>	<b>184</b>
目的積立金取崩額	0	0	0
<b>当期総利益</b>	<b>▲1</b>	<b>183</b>	<b>184</b>

## 主な増減理由

退職手当等、プロジェクト経費等増加に伴う収益化額の増

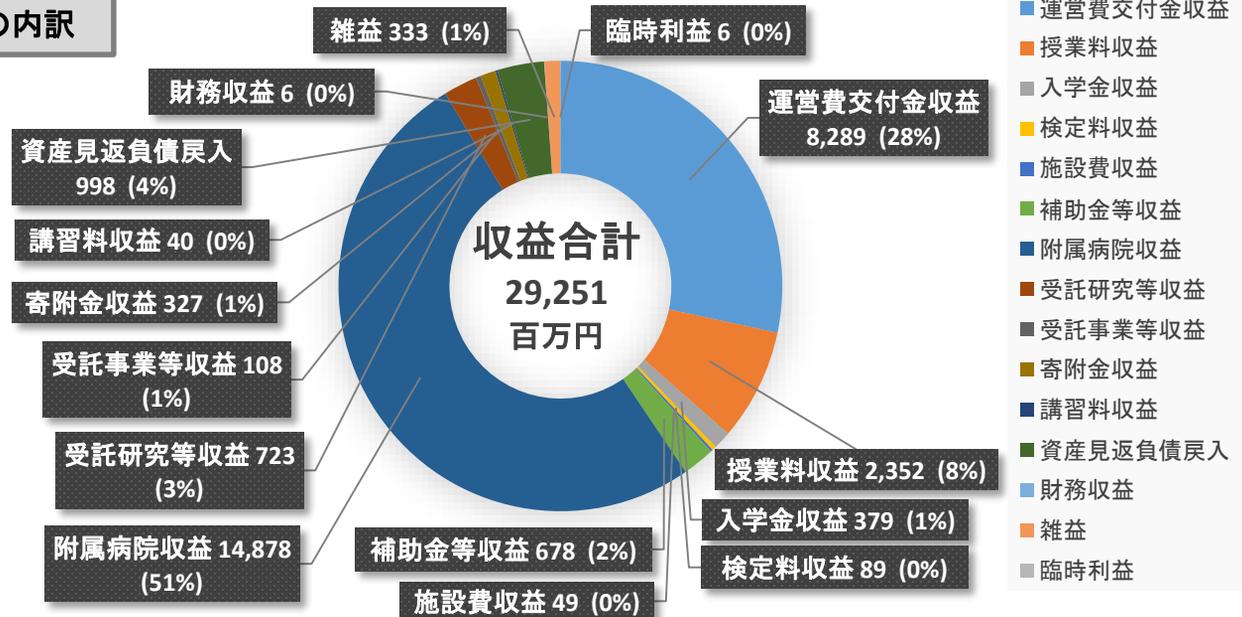
資産取得増加に伴う収益化額(修繕費等支出)の減

受入額増加に伴う費用支出額(収益化額)の増  
(主なもの)  
医療消耗器具備品費、  
人件費(教員・職員)

【入院】  
・手術件数増加による増  
【外来】  
・外来患者数の増加による増  
・高額な薬剤を使用する  
注射件数増加による増

受託研究受入減少に伴う減

## 収益の内訳



## ◆キャッシュ・フロー計算書

キャッシュ・フロー計算書は、一会計期間におけるキャッシュ・フローの状況を「業務活動」「投資活動」「財務活動」の3つの区分で表示するものであり、貸借対照表及び損益計算書と同様に、本学の活動全体を対象とする重要な情報を提供するものです。

(単位：百万円)

区 分	平成24年度	平成25年度	増減額
<b>I▶ 業務活動によるキャッシュ・フロー</b>	4,205	4,006	▲199
原材料、商品又はサービスの購入による支出	▲10,040	▲9,949	91
人件費支出	▲14,652	▲14,870	▲218
その他の業務出	▲614	▲563	51
運営費交付金入	9,481	9,016	▲465
授業料収入	2,428	2,367	▲61
入学金収入	375	365	▲10
検定料収入	89	89	0
附属病院収入	14,458	14,813	355
受託研究等収入	983	654	▲329
受託事業等収入	84	96	12
寄附金収入	650	477	▲173
補助金等収入	588	1,072	484
財産貸付料等入	83	84	1
科学研究費補助金等の増減	25	28	3
その他収入	267	32760	
小 計	4,205	4,006	▲199
国庫納付金の支払額	—	—	—
<b>II▶ 投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	▲3,835	▲547	3,288
有形固定資産の取得による支出	▲4,045	▲4,957	▲912
無形固定資産の取得による支出	▲14	▲38	▲24
有形固定資産及び無形固定資産の売却による収入	0	0	0
定期預金の払出・預入による収入支出	▲1,460	2,300	3,760
施設費による収入	1,677	2,141	464
国立大学財務・経営センターへの納付による支出	—	—	—
資産除去債務の履行による支出	—	—	—
敷金・保証金の差入れによる支出	—	—	—
小 計	▲3,841	▲554	3,287
利息及び配当金の受取額	6	7	1
<b>III▶ 財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	377	3,184	2,807
長期借入金による収入	1,748	4,612	2,864
国立大学財務・経営センター債務負担金返済	▲408	▲369	39
長期借入金の返済による支出	▲317	▲376	▲59
リース債務の返済による支出	▲479	▲528	▲49
小 計	544	3,339	2,795
利息の支払額	▲167	▲155	12
<b>IV▶ 資金に係る換算差額</b>	—	—	—
<b>V▶ 資金増減額</b>	747	6,643	5,896
<b>VI▶ 資金期首残高</b>	5,510	6,257	747
<b>VII▶ 資金期末残高</b>	6,257	12,900	6,643

業務活動による  
資金調達等  
+40億円

【増要因】

(主なもの)

- ・附属病院収入増
- ・補助金等の受入額増

【減要因】

(主なもの)

- ・運営費交付金収入の減
- ・受託研究等の受入額減
- ・病院雇用増に伴う人件費支出増

投資活動による  
資金利用等  
▲5億円

【増要因】

(主なもの)

- ・病棟新営工事未払金資金増に伴う増

財務活動による  
資金調達等  
+32億円

【増要因】

(主なもの)

- ・病棟新営工事に伴う借入金の増

平成25年度  
キャッシュ増加額  
+66億円

# 財務諸表等の概要

## ◆国立大学法人等業務実施コスト計算書

国立大学法人等業務実施コスト計算書とは、国立大学法人等の業務運営に関して、国民の負担に帰せられるコストを示すものです。

平成25年度本学の業務運営上、納税者たる国民の負担していただいているコストは10,346百万円(国民1人当たり約85円)です。【平成25年度 国立大学法人平均 15,005百万円(国民1人当たり約123円)】

(単位：百万円)

区 分	平成24年度	平成25年度	増減額
<b>I 業務費用</b>	8,924	9,627	703
(1) 損益計算書上の費用	28,192	29,074	882
業務費	27,398	28,304	906
一般管理費	611	607	▲4
財務費用	164	153	▲11
臨時損失	19	11	▲8
(2) (控除) 自己収入等	▲19,268	▲19,447	▲179
授業料収益	▲2,395	▲2,352	43
入学料収益	▲378	▲379	▲1
検定料収益	▲89	▲89	0
附属病院収益	▲14,432	▲14,878	▲446
受託研究等収益	▲932	▲723	209
受託事業等収益	▲88	▲108	▲20
寄附金収益	▲329	▲327	2
その他収入	▲40	▲40	0
資産見返運営費交付金等戻入(授業料)	▲201	▲211	▲10
資産見返寄附金等戻入	▲160	▲160	0
建設仮勘定見返運営費交付金戻入(授業料)	▲5	▲11	▲6
財務収益	▲6	▲6	0
雑益	▲207	▲155	52
臨時利益	▲6	▲6	0
<b>II 損益外減価償却相当額</b>	829	852	23
損益外減価償却相当額	829	852	23
損益外固定資産除却相当額	—	—	—
<b>III 損益外減損損失相当額</b>	—	—	—
<b>IV 損益外利息費用相当額</b>	0	0	0
<b>V 損益外除売却差額相当額</b>	3	0	▲3
<b>VI 引当外賞与増加見積額</b>	▲47	58	105
<b>VII 引当外退職給付増加見積額</b>	▲437	▲653	▲216
<b>VIII 機会費用</b>	414	461	47
国又は地方公共団体の無償又は減額された使用料による	—	—	—
貸借取引の機会費用	122	121	▲1
政府出資の機会費用	292	340	48
無利子又は通常より有利な条件による融資取引の機会費用	—	—	—
<b>IX (控除) 国庫納付額</b>	—	—	—
<b>X 国立大学法人等業務実施コスト</b>	9,686	10,346	660

### 【業務費用】

96億円

～国の財源で賄われているコスト～

損益計算書の費用から授業料収益や病院収益等の自己収入を差し引いたもの。

### 【増要因】

(主なもの)

- ・附属病院収入増に伴う診療経費の増加
- ・病院雇用増に伴う人件費の増加
- ・退職手当の増加

### 【損益外費用】

3億円

～損益計算書に計上されていないコスト～

国から出資された資産等の減価償却、除却損及び一部の退職手当など、制度上費用に反映されていない負担相当額。

### 【機会費用】

5億円

～免除・軽減されているコスト～

国等から無償借受している財産や国が法人へ出資している資本等を他の投資へ振り替えたら得られたであろう相当額を利益喪失の費用として認識。

平成25年度業務実施コスト  
103億円(国民1人当たり約85円)

# 財務指標による分析

- ◆ 各財務指標の↑を付した指標は比率が高いほど、↓を付した指標は比率が低いほど良好な状況を示しています。また、前年度と比較して、各指標が改善している場合には、↗悪化している場合には、↘変化が無い場合には、→を付しています。
- ◆ 同規模大学とは、医学系学部その他の学部で構成され、学生収容定員1万人未満の25国立大学法人です。

	指標名	同規模大学 平成25年度平均 値	本 学		増減 (25-24)
			平成24年度	平成25年度	
健全性	流動比率 ↑	113.9%	116.8%	112.8%	↘ ▲4.0%
	自己資本比率 ↑	55.9%	68.5%	61.5%	↘ ▲7.0%
活動性	業務費対教育経費比率 ↑	5.5%	5.3%	5.0%	↘ ▲0.3%
	業務費対研究経費比率 ↑	6.0%	6.1%	6.1%	↗ 0.0%
	学生当教育経費 ↑	262千円	284千円	277千円	↘ ▲7千円
	教員当研究経費 ↑	2,470千円	2,760千円	2,931千円	↗ 171千円
発展性	外部資金比率 ↑	5.0%	4.8%	4.0%	↘ ▲0.8%
	経常利益比率 ↑	1.2%	0.0%	0.6%	↗ 0.6%
効率性	人件費比率 ↓	50.4%	52.5%	52.9%	↘ 0.4%
	一般管理費比率 ↓	2.8%	2.2%	2.1%	↗ ▲0.1%
収益性	診療経費比率 ↓	66.0%	58.8%	60.3%	↘ 1.5%
	附属病院収入対 長期借入金返済 比率 ↓	7.8%	5.0%	5.0%	→ 0.0%

## 健全性

国立大学法人として継続的安定的に高等教育サービスを提供するためには一定の財務の健全性(安定性)が必要となります。

## 活動性

国立大学法人は教育研究を行うところですから、教育研究や管理業務の活動状況を財務的に把握することが重要です。

## 発展性

国立大学法人の発展性は、財務的には、収益性を高めて財務体質を強化している程度を示しており、付加価値の増加分と言い換えることができます。

公 式	指標の意味
流動資産 / 流動負債	1年以内に支払うべき債務（流動負債）に対して、1年以内に現金化可能な流動資産がどの程度確保されているかを示す。
自己資本（純資産） / （負債＋純資産）	総資産に対する自己資本の比率であり、財務の健全性を示す指標。この比率が高いほど大学の安定性（健全性）が高い。
教育経費 / 業務費	業務費に対する教育経費を示す指標。 この比率が高いほど教育活動に使用される経費割合が高い。
研究経費 / 業務費	業務費に対する研究経費を示す指標。 この比率が高いほど研究活動に使用される経費割合が高い。
教育経費 / 学生数（人）	学生1人当たりの教育規模を示す指標。 この値が高いほど学生1人当たりの教育に要する経費が大きい。
研究経費 / 教員数（人）	教員1人当たりの研究活動規模を示す指標。 この値が高いほど研究活動で使用される経費が大きい。
（受託研究等収益＋受託事業等収益＋寄附金収益） / 経常収益	外部資金収益の経常収益に占める割合を示す指標。 この比率が高いほど外部資金への依存度が高い。
経常利益 / 経常収益	経常収益に対する大学の事業活動によって得た利益の割合を示す指標。この比率が高いほど事業の合理性と能率性が高い。
人件費 / 業務費	人件費の業務費に対する割合を示す指標。この比率が小さいほど大学の効率性が高い。（教育経費や研究経費を重視）
一般管理費 / 業務費	一般管理費の業務に対する割合を示す指標。この比率が小さいほど大学の効率性が高い。（教育経費や研究経費を重視）
診療経費 / 病院収益	病院収益に対する診療経費の割合を示す指標。 この比率が低いほど病院の収益性が高い。
（長期借入金返済＋財務経営センター納付金） / 附属病院収入	病院収入に対する借入金の割合を示す指標。 この比率が低いほど病院の健全性が高い。

## 効率性

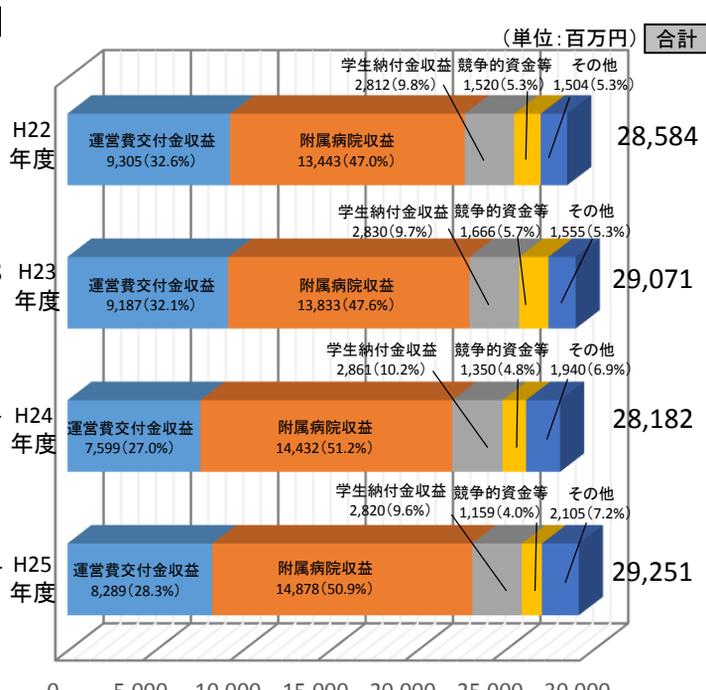
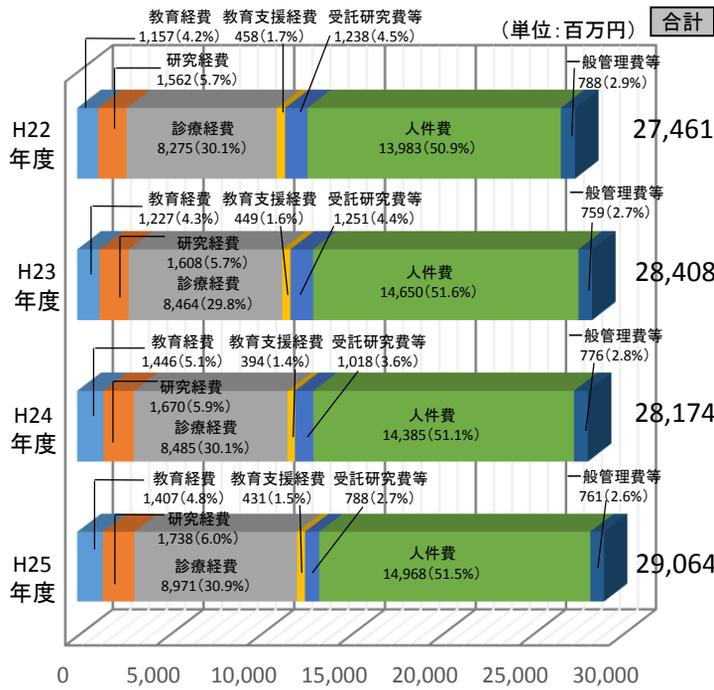
国立大学法人には、国の税金が投入され運営されていることから、効率的な運営は、国立大学法人にとって資源の効率的な利用になると同時に、国民の皆様にとっても税金が効率的に使用されているかどうかを示す重要な要素になります。

## 収益性

国立大学法人は、公共的性格を有することから利潤追求という観点からの収益性は求められていません。しかし、附属病院においては、多額の自己収入が発生し、それに応じた経費も多額となるため、診療経費に見合う収益確保は重要となります。

## 〔経常費用の推移〕

## 〔経常収益の推移〕

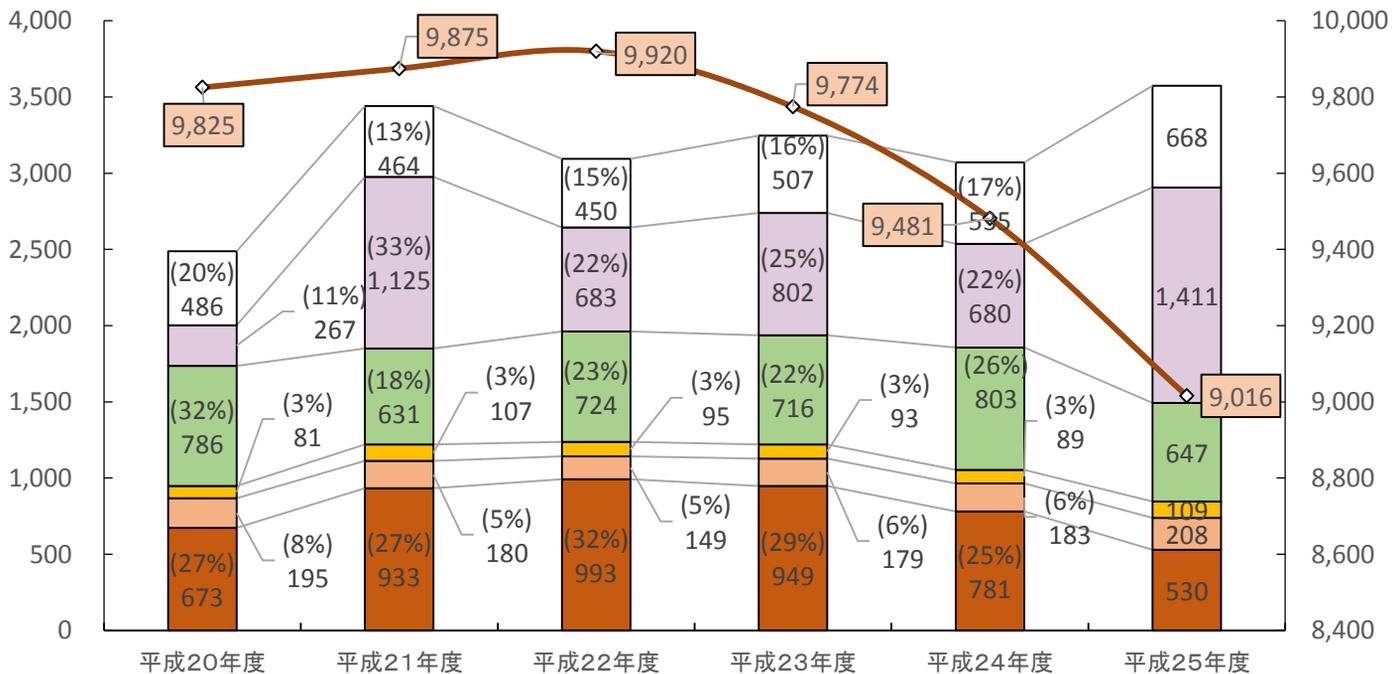


※ 競争的資金等は、受託研究等収益及び寄附金収益の合計額

## 〔運営費交付金と競争的資金等獲得状況〕

(単位: 百万円)

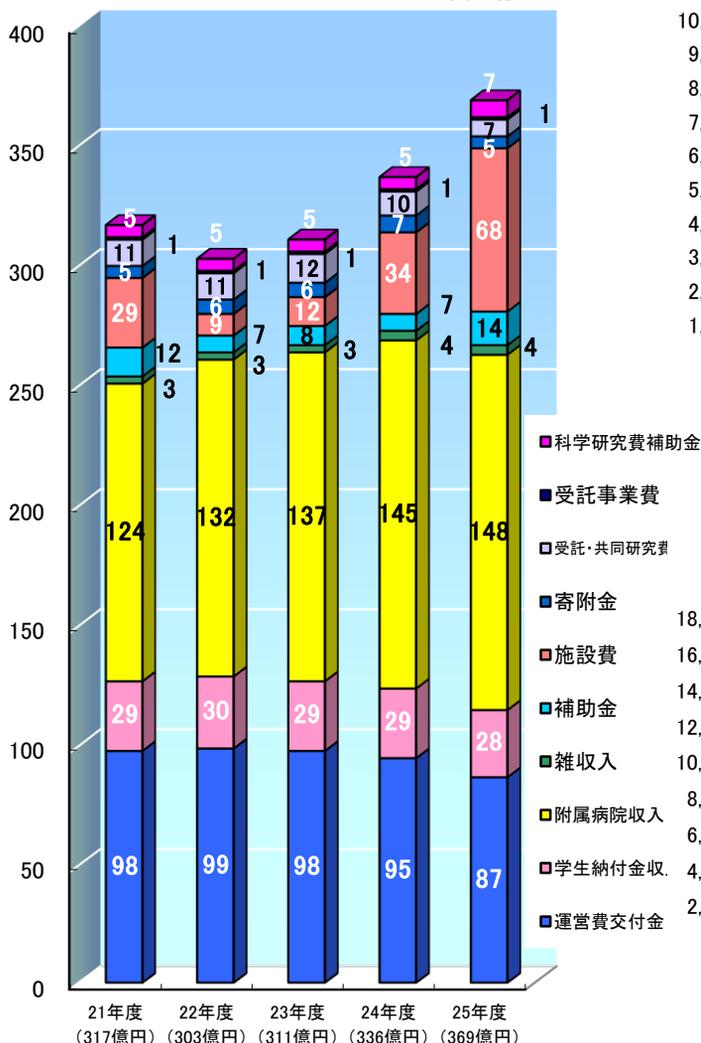
(単位: 百万円)



※ 平成24年度及び平成25年度は、国家公務員の給与の改定及び臨時特例に関する法律の趣旨を踏まえた給与減額支給措置の影響により、運営費交付金の額が大幅に減少している。

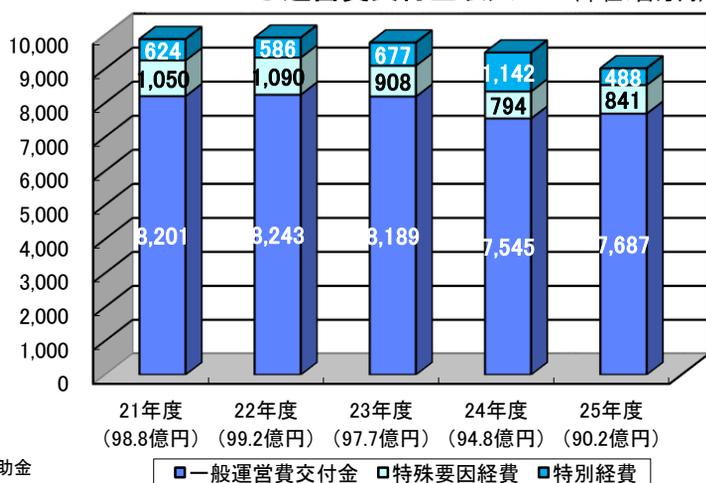
●大学運営資金(科研費、施設費等外部資金含む)

(単位:億円)



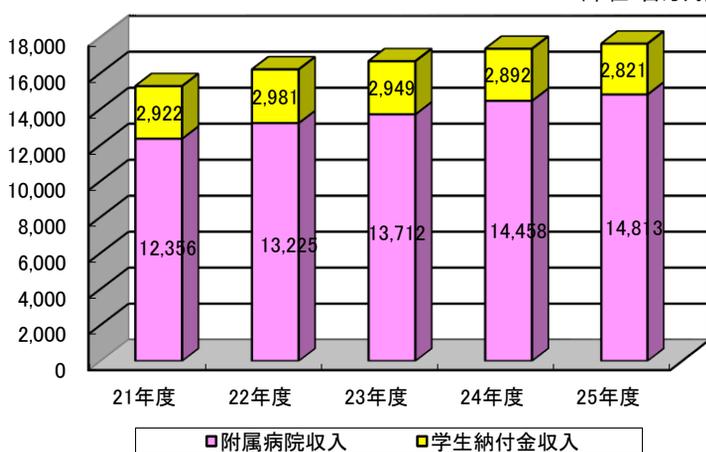
●運営費交付金収入

(単位:百万円)



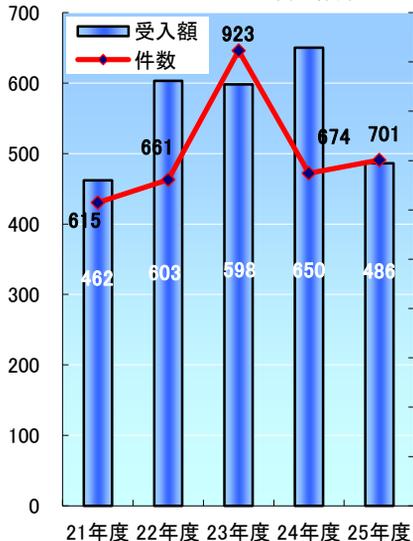
●自己収入(学生納付金・附属病院収入)

(単位:百万円)



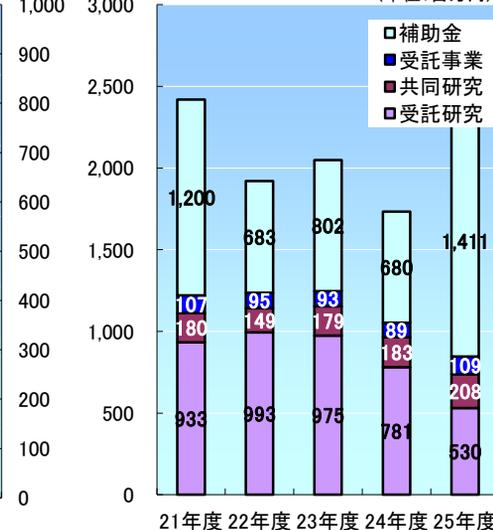
●寄附金

(単位:件、百万円)



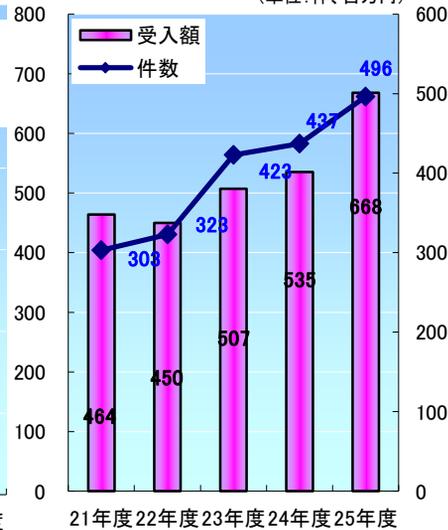
●受託研究・共同研究・受託事業・補助金

(単位:百万円)



●科学研究費補助金

(単位:件、百万円)



# グローバル人材育成 福井から世界へ



福井大学では長期目標として、「21世紀のグローバル社会において高度専門職業人として活躍できる人材の育成」を掲げています。平成24年度に東北陸地区の国立大学で唯一採択された、文部科学省の「グローバル人材育成推進事業」では、工学部・工学研究科を中心に「世界的な視点をもった高度専門職業人の育成」を目指し、様々な取組を進めています。

## 目指すは北陸地方のグローバル化の拠点に！

福井大学では、以下のような施策を推進し、地方の中小規模総合大学が実施可能な、これからの地方に必要なグローバル人材育成モデルの構築と実行を目指します。



### 「福井大学グローバル人材育成推進事業」概要



## 主な取り組み

### 学生のニーズに合わせた多様な留学プログラム

平成25年度は、37の短期プログラムに延べ210名が留学し、語学研修やホームステイ、グローバル企業の見学などさまざまな経験を通じ、語学力や異文化感性などを培った。



米国・ポートランド州立大学での語学研修



中国・上海理工大学での専門分野型研修

### 平成25年度海外留学実績（一部）

- <アジア>
  - 韓国：東洋大学校、慶熙大学校、韓南大学校
  - 中国：国立成功大学、中国政法大学
  - 台湾：国立成功大学、中国政法大学
  - 中国：天津理工大学、上海理工大学、西安理工大学
  - インドネシア：アイルラング大学
  - タイ：キングモンクット工科大学
  - スーバハラム大学、タマサート大学
  - ベトナム：ハノイ工科大学
  - マレーシア：プトラ大学、マラヤ大学
  - バングラデシュ：クルナ科学技術大学
- <アフリカ>
  - ウガンダ：マケレレ大学
- <オセアニア>
  - オーストラリア：ジュームスクック大学
  - ニュージーランド：オークランド大学
- <北米>
  - アメリカ：ボートランド州立大学、マサチューセッツ大学ローウェル校
  - カナダ：オカナガン大学、トロント大学
- <ヨーロッパ>
  - イギリス：バーミンガム市立大学、レスター大学
  - スウェーデン：チャルマース工科大学
  - ドイツ：アヘン工科大学、ハンブルク大学

### 「語学センター」による実践的英語教育

質の高い「使える英語」の習得のため、「語学センター」を中心にTESOL等を専門とした英語教育のプロフェッショナルによる実践的英語専門教育を実施。また、英語を母国語としない人たちのための英語教授法。語学センターの交流スペース「Global Hub」には、留学経験豊富な学生スタッフや留学生が集まり、リラックスした雰囲気の中で、語学力を高め、メディアの活用や交流イベントへの参加を通して世界とつながることができる。また、総合図書館に開設した国内トップクラスの言語開発センター（Language Development Center: LDC）には、e-learningシステムや2,500冊以上の本・1,000本以上のDVD等の教材を備え、充実した自主学習環境を提供する。



英語インストラクターによる英語授業風景



Global Hubでの異文化交流



スピーキング練習が可能な進音室の個別学習ブース（LDC）

詳しくは [福井大学 語学センター](#) 検索

### 国際的評価に基づいたカリキュラム改革

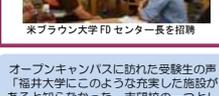
語学教育カリキュラム改革として、平成25年度から工学部新入生に対し、また平成26年度からは教育地域科学部新入生に対し、週2回の英語授業を実施。加えて、TOEIC及び語学テストを実施し、習熟度別少人数クラス編成による教育を実施。平成25年度末に実施した工学部1年次生全員を対象としたTOEICでは、入学時と比較して平均スコアが50点以上上昇する等、高い成果を挙げている。教育の国際的保証証や教員のグローバル教育力向上、職員の学生支援力向上への観点から、海外の先進大学の視察・ベンチマークを実施。全学FD・SDシンポジウムや海外の先進大学から講師を招聘して外部評価を行い、カリキュラムや評価の改革、学習時間の確保や学期制の見直しなど国際的通用性を持つ教育課程の実現を目指す。



海外先進大視察風景



米ブラウン大学FDセンター長を招聘



オープンキャンパスに訪れた受験生の声「福井大学にこのような充実した施設があるとは知らなかった。志望校の一つとして考えたい。」

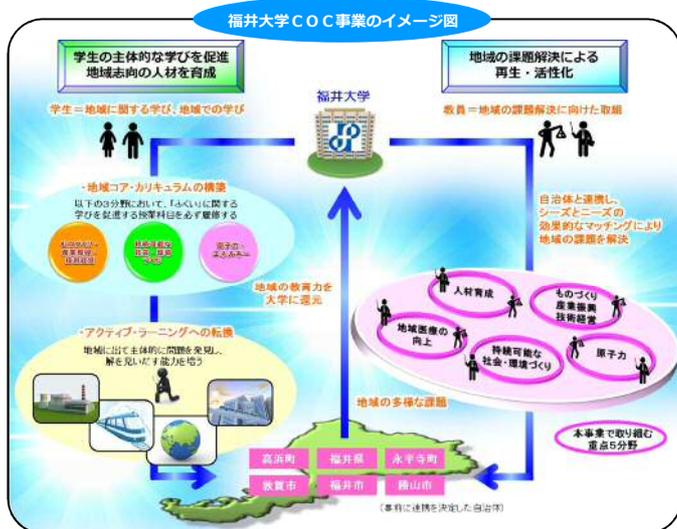
# 福井の地(知)の拠点づくり

## 地域を志向して人を育み、地域を活かす福井の知の拠点づくり

福井大学は、福井県唯一の国立大学として、地域の教育、医療、産業、まちづくり等を支える人材の育成や新たな科学的価値の創造を通じ、地域に貢献する活動を継続してきました。

こうした活動実績と、さらなる地域振興のための取組計画が認められ、平成25年度の文部科学省事業「地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)」に採択されました(申請数319件のうち採択数52件)。この事業は、大学と自治体等が連携し、全学的に地域を志向した教育・研究・社会貢献を進めることで、地域再生・活性化の拠点となる大学を形成することを目的としています。福井(福井県、福井市、永平寺町、敦賀市、勝山市、高浜町)の地域課題である重点5分野に戦略的に取り組むため、COC推進体制を整備するとともに、地域志向の実践力と創造力を有する学生を育成するため、教育カリキュラム等の改革を行い、全学を挙げて「福井の知の拠点づくり」を推進します。

(COC=「Center of Community」の略)



## 本事業で取り組む重点5分野の主な内容

### I 地域再生・活性化の基盤となる「人材育成」

- 教育委員会等と連携した教師の実践力を培う教師教育改革
- 理科に強い教員養成・研修
- 小中高英語教員の実践的英語教育力向上
- 履修証明プログラム活用による社会教育関係職員等の専門的力量形成



地域の核となる優れた理科教員(コア・サイエンス・ティーチャー)を養成するプログラムを教育地域科学部学生、大学院生、現職教員を対象に実施しています。

### II 地域産業の持続的な発展に資する「ものづくり・産業振興・技術継承」

- 「ふくい産学官共同研究拠点」によるイノベーション創出
- 「夢を形にする技術者 IMAGINEER」の産学連携による育成

### III 進行する少子高齢化と過疎化に対応する「地域医療の向上」

- 医療人育成・派遣システムの構築
- 「福井県地域医療支援センター」を設置
- 大学院博士課程「地域総合医療学コース」を設置
- 地域に生きる住民の健康の保持・増進
- 高齢の地域住民の心の健康に関する健診システム
- 「子どものこころ」の諸問題への包括的対応



工学部の学生が共通教育科目で海外6カ国向けのメカネデザインにチャレンジ。英語での情報収集やプレゼン発表など、福井が誇る眼鏡産業のグローバル戦略をPBL方式(問題解決型授業)で学んでいます。

### IV 自然共生社会を実現する「持続可能な社会・環境づくり」

- 持続可能な環境づくり
- 環境教育やESD(持続可能な開発のための教育)指導による里山等の荒廃や環境汚染の防止
- 環境学習講義等による地域での環境活動リーダー育成
- まちづくり
- 県都のまちづくりや中小都市の都市機能強化策の共同研究



医学部地域プライマリケア講座では、医学部学生や研修医が地域医療実習を通して、地域医療のやりがいと楽しさを学ぶとともに、地域の理解を深めています。

### V 安全・安心に資する「原子力関連分野の人材育成、防災体制の確立」

- 原子力関連施設設備の選抜による原子力人材の育成や原子力安全の研究
- 原子力防災体制の確立
- 緊急時医療に強い救急総合医養成

以上の5分野において、県内自治体と2.4の事業を推進しています。

詳しくは [福井大学 COC](#) 検索

# 教員養成改革

福井大学の教員養成は、教育に携わる高度専門職業人として活躍できる人材の育成を積極的に推進しています。そのために、大学における従来の教員養成を抜本的に改革し、「**学校拠点方式**」と呼ばれる、地域の学校を拠点とした教師教育の革新を実現するための取組を進めています。この取組は国からも認められ、平成24年8月28日の中央教育審議会答申では「**教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について**」において**教員養成のモデルとして紹介**されています。

さらに、附属学校園を先進的教師教育研究の拠点と位置づけ、教育の質の高次化とそれに対応できる教員の養成のため、学部・研究科・附属学校園が協働して現場指導に取り組み、より一層緊密に連携した教育研究体制の構築を目指しています。

## ■「学校拠点方式」：学校現場が大学院

大学教員が学校に赴き、学校の抱える課題を学校と大学とが協働して取り組む教師教育を「学校拠点方式」と呼びます。



# 就職率7連覇

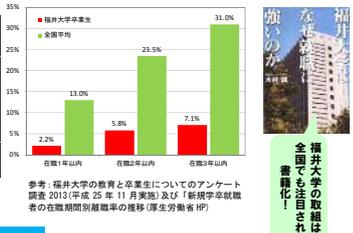
**高い就職率！**  
大学通信調査「全国大学就職率ランキング2014」において、本学は複数学部を有する国立大学において7年連続1位となりました。卒業生1,000人以上の国公立大学においても4年連続1位となり、高い就職率を保持しています。

**教育地域科学部 98.5%** **医学部 96.2%** **工学部 94.5%**

**就職率ランキング** 複数学部を有する国立大学

年度	1位		2位		3位	
	大学名	就職率	大学名	就職率	大学名	就職率
2014	福井大	98.7	九州工大	94.4	東京工大	93.8
2013	福井大	95.8	名古屋大	94.2	名古屋工大	93.6
2012	福井大	95.7	九州工大	95.3	名古屋大	93.5
2011	福井大	94.7	筑波大	93.1	名古屋大	93.0
2010	福井大	94.3	九州工大	93.9	東京工業大	91.3
2009	福井大	97.2	長岡理工大	95.9	九州工大	95.8
2008	福井大	95.3	九州工大	94.6	豊橋理工大	91.9

**低い離職率！**  
在職期間3年以内の離職率(7.1%)は全国平均(31.0%)を大幅に下回っており、企業からその高い定着率が評価されています。



## 福井大学が就職に強い3つの理由

- 積極的なキャリア形成支援**
  - 地域と密着した人間力育成事業の実施
  - 日々進歩・変化する医療現場への適応能力育成
  - 夢をかたちにする技術者育成の徹底
- 学生を支える充実した就職支援体制**
  - 就職担当教員、キャリアカウンセラーが内定までサポート
  - 本学独自のキャリアサポートシステムの運用
  - 就職活動の拠点サテライトキャンパスの設置
- きめ細かな就職支援活動の実施**
  - 充実した就職支援講座の開講
  - OB・OGとの懇談会、学内合同・個別企業説明会 等



# 病院再整備新病棟オープン

## ■優れた地域医療人を輩出するハイクオリティメディカルセンター



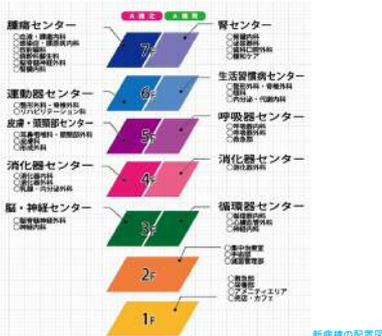
平成26年9月16日  
新病棟オープン



○鉄骨鉄筋コンクリート造、地上8階/地下1階建、488床(病院全体で600床)  
救急部、栄養部、手術部、集中治療部、減菌管理部を配置

## ■最高・最新の医療体制の整備

○全国では少ない「臓器・疾患機能別病棟センター」を全病棟で実現しています。  
集学的診療体制による治療効果の向上を目的とし、病棟フロアごとにセンター化することで、診断から入院、治療、退院までを切れ目なく完結させ、患者さん中心の医療を展開することができます。  
今後、平成30年度完成を目指し、既存棟を改修。外来スペースの拡充、中央採血室や中央処置室ゾーンの集約、患者さんのご家族が休憩や仮眠をとれる家族控室、患者総合支援センターの設置などを計画しています。



## ○救急医療体制を大幅に拡充

北米ER型救急(1次救急から3次救急までのすべての救急患者の方を受入)に対応するため、救急車入口と救急外来入口を分け、効率的な動線を確認しました。救急搬送口を入れて直ぐに除染室を設け、広い処置室にはCT装置を設置し、迅速な診断が可能となります。



## ○先端医療機器や設備の導入

手術中に血管造影が同時に行える、血管造影装置と手術台を組み合わせたハイブリッド手術室を始めとする先端医療機器や設備を導入。また、手術部、集中治療部、減菌管理部を効率的な動線で結び、人的、物的な移動を最小限にすることで、患者さんの負担を軽減することができます。



## ○次世代ナースコールシステムの導入

看護師の持つスマートフォンと連携し、患者さんの基本的な症状などの情報が表示され、適切な対応が迅速に行うことが可能となります。



## ■快適・安全な医療空間の提供

○1階部分には、売店、カフェを設置し、来院された方に快適にお過ごしいただくことができます。また災害時にはトリアージスペース(災害時に患者さんの重症度に応じ治療の優先度や処理の方法について診断を行う場所)として活用するため、壁に酸素の供給、吸引用の設備を設置しています。



○入院病棟は、個室を既存棟75床から151床に大幅に拡大。また、無菌病室、緩和個室を増やし、様々なニーズに対応することができます。また、各病棟に談話室やティークーナーを設け、患者さんご家族とくつろぐことができます。



○食事サービスは、ニュークックチル方式(調理した物を急速冷却し、低温状態で盛り付けてテルド保管。食事の時に再加熱して配膳する方式)を導入し、安全で適時・適温の食事を提供することができます。



詳しくは [福井大学 病棟](#) 検索

創造力、実践力。



国立大学法人

福井大学

UNIVERSITY OF FUKUI



財務レポートをお読みいただきありがとうございました。  
なお、財務レポート等決算に関連する資料は、本学ホームページで公開しております。  
<http://www.u-fukui.ac.jp/>

今後もみなさまに財務情報をわかりやすく説明するよう努めてまいります。  
財務レポートに関するみなさまからのご意見を賜りますようお願いいたします。



国立大学法人福井大学 2013財務レポート

発行: 福井大学財務部財務課決算係

〒910-8507 福井市文京3-9-1

TEL:0776-27-9786 FAX:0776-27-8870

<mailto:zzkessan-k@ad.u-fukui.ac.jp>

<http://www.u-fukui.ac.jp/>